



第15回 てつがくカフェ 震災と教育 第2弾 「震災から〈教育〉を問い直す」

日時	:	2012年10月7日(日)15:00~17:00
会場	:	せんだいメディアテーク 7階 スタジオa
参加	:	無料(事前申し込み不要、直接会場へ)
問合	:	E-mail: tanishi@hss.tbgu.ac.jp (西村)
主催	:	せんだいメディアテーク、てつがくカフェ@せんだい

■震災から〈教育〉を問い直す

前回(2012年7月1日)のてつがくカフェ「震災と教育」では、防災無線で住民に避難を呼びかけながら犠牲になられた南三陸町職員のエピソードを検討し、子どもたちに今回の震災という〈出来事〉をどのように教えるべきなのかについて参加者の皆さんとじっくり考えてきました。

ここでは、震災を〈道徳〉の教材として用いることの問題—例えば、どう行動するのが〈正しい〉のかといった教える側の価値観を押し付けてしまう可能性や、〈考える〉契機としての震災教育の可能性について意見が交わされました。さらに〈教育〉そのものが教員の力量や学校という場だけに限定されていることへの違和感なども語られ、〈教育〉の抱える問題が震災という〈出来事〉を通して浮かび上がってきたように思います。

しかし、「震災と教育」をめぐるのは、まだ積み残された問題が数多く存在しています。

例えば、福島県内では、文部科学省が小・中・高校生向けに作成した放射線副読本について、放射線が身近であることを強調し、健康への影響を過小に見せるなど内容が偏っているという問題点が指摘され、独自で指導案を検討するなどその対応に追われています。また、教員は放射線教育に関して副読本から逸脱しないよう指導を受けており、指示通りに教えると被ばくに不安を抱く親から非難され、危険性について言及すると苦情が来るなど混乱が生じたといえます。子どもたちに誰が／何を／どのように／教えるのかは重要な問題ですが、そもそも専門家ですら見解が一致しておらず、ましてや一人ひとり〈受け止め方〉が異なる問題を〈教える〉というのは、かなり難しいことのように思われます。

そこで、今回のてつがくカフェでは、こうした〈教える〉ことの難しさや、震災という〈出来事〉から見えてきた〈教育〉にまつわる問題をあぶり出し、〈教育〉そのものについて問い直してみたいと思います。みなさま、どうぞ、ご参加ください。(近田真美子 てつがくカフェ@せんだい)

◎てつがくカフェ カウンタートーク

カフェ終了後にスタッフによる延長戦トークをユーチューブ配信しています。

3がつ11にちをわすれないためにセンターのホームページより過去の番組をお聴きいただけます。

その(11)「震災を〈記録〉するということ」<http://recorder311.smt.jp/movie/16072>

その(10)「震災と教育」<http://recorder311.smt.jp/movie/15418>

その(9)「『声の届き方』(制作:伊藤照手)から考える」<http://recorder311.smt.jp/movie/14739>

その(8)「震災と美德」<http://recorder311.smt.jp/movie/14596>

過去の番組アーカイブ <http://recorder311.smt.jp/tetsugaku/>

■てつがくカフェ@せんだいHP:<http://tetsugaku.masa-mune.jp/>

■せんだいメディアテーク 考えるテーブルHP: <http://www.smt.jp/thinkingtable2012/?p=42>